

FIG. 49.—*Spathura Underwoodi*, male and female (from Brehm).

vol. xiii. 1854, p. 157; see also Mr. Wallace's much fuller account in vol. xx. 1857, p. 412, and in his Malay Archipelago.

館蔵

ダーウィン『人間の由来と雌雄選択』
1871年

近畿大学中央図書館報

香散見草

2009 40号

目次

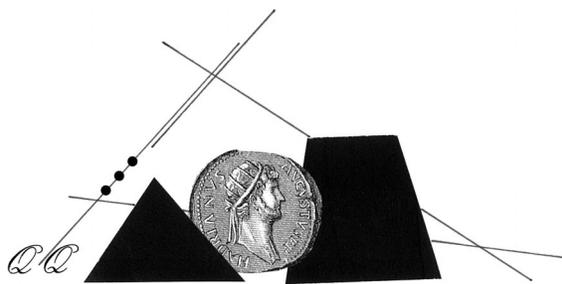
- ☆知の発信と開放をめざして …………… 館長 村瀬憲夫… 1
- ☆館蔵資料紹介
二冊のクープス …………… 経済学部教授 中村進… 5
- ☆中央図書館の相互利用サービスとその移り変わり
…………… レファレンス課 佐賀京子… 15
- ☆ホームページ …………… レファレンス課 中井悦子… 21
…………… 収集・整理課 佐々木潤子… 23
- ☆編集後記 …………… 24

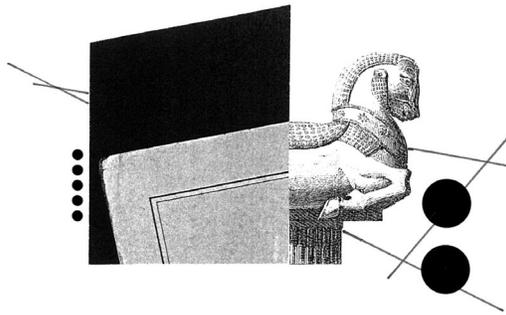
香散見草

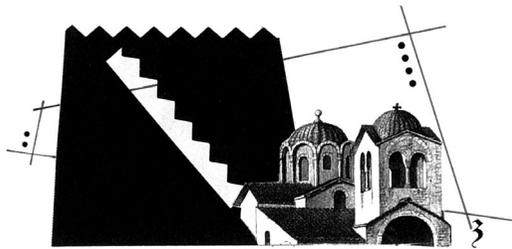
山里の軒はにさけるかさみくさ

色をも香をも誰みはやさん

(葦玉和歌集)







図書館随想

本年度の新生も入学し、約7ヵ月。本学の学風になれ毎日を過ごしていると思います。新たな視点で大学また図書館を捉えていることと思います。様々な角度から捉えていただき、知識の巾を広めて入ってもらいたいものです。

図書館は、日々、利用者サイドの視点に立ち、情報を発信し教育・研究活動、その支援を行っています。何をしているかわからないという方もいらっしゃると思います。是非図書館に来てみてください。その斬新さがおわかりいただけることと思います。

[K.Y]

Speak-out

ご冥福をお祈りします

今年3月まで館長でおられた櫻井齊先生が9月2日にお亡くなりになりました。

突然の訃報に課員一同驚くばかりで言葉ありません。私は、図書館に2年前に異動になり、櫻井館長の下でお仕事をさせていただきましたが、「図書館対策委員会」での図書館の現況の確認から検討課題に踏込み図書館を学生や利用者の身近になるように動いておられたことが一番印象に残っております。

櫻井先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

相互利用のこと

大学図書館は、電子媒体の導入でここ10年余り様変わりをしました。

先生方の来館も減り、本の購入も少なくなっていると思っているのは私だけでしょうか？

レファレンス課の佐賀さんの原稿を読み、相互利用にも電子媒体は、大きな影響を与えていることがわかります。

自館が抱える電子ジャーナルやデータベースに加え機関リポジトリの公開や国立情報学研究所CiNiiの全文リンクなど様々な電子媒体が利用できる今日、相互利用の仕事が、より

複雑になっているのが文章から伺えます。

相互利用のこと 2

便利ですよ。

自館で無い資料を探しだして、手続きし、必要な部分や図書を借受けてくれる。

ただ、私は、知っています。文章にすると「探し、手続きし、貸出す、借りる」この要約された4つの単語の間に相互利用を担当する課員の努力は、並大抵のものではないことを。

ネットで国内外を検索するのはもちろん、データベースのそれぞれの特徴を知りぬきあらゆる参考図書を酷使し利用者が必要とする資料を探し出す。

日頃の資料への関心と利用者へのサービスに答えようとする気持ちがそこにはあります。

館蔵資料紹介

同じ本が2冊？ 貴重書が重複？

その謎を中村先生が解明かしてくれました。

「2冊のクープス」、面白く読ませていただきました。

機会があれば、蔵書展などで2冊のクープスを眺め比べてみたいものです。

巻頭

40号の巻頭文は、4月に図書館長になられた村瀬先生の文章です。

まだ、暑いころに原稿をいただいたのに刊行が初冬になってしまいました。

申訳なく思っております。

村瀬先生は、ご専門が「万葉集」と伺っております。

この秋、フィールドワークで耳成から藤原京を通って、飛鳥まで歩くイベントによければ参加しませんかと図書館員に声をかけていただきました。

当日、厚かましくも皆で参加させていただきました。

お天気もよく、気持ちよく耳成駅から飛鳥

駅まで歩くことができました。

ゲストとして、古代史の鈴木先生、地理学の関口先生が参加され、3人の先生方が語る言葉は、耳成駅を出発するときに館長が「今日は、皆さん古代の飛鳥にワープしてください」と言われたことがよくわかりました。

名勝や遺跡に立て看板を読むだけではなく、先生方による説明が歴史上の人物や出来事を自身が古代にいるように感じる事ができたのは私だけではないと思います。

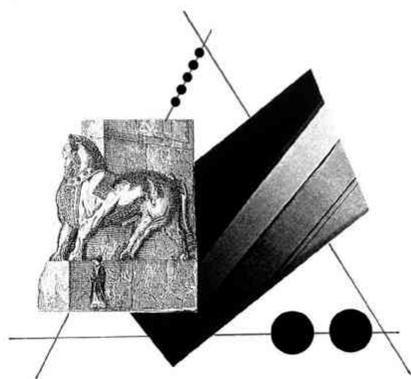
蔵書展

今年も蔵書展が「Science の革命」と題して11月13日から19日まで開催されました。天文学と生物学を中心に貴重書を37点展示しました。多くの入場者がこられ蔵書展を楽しんでいただけたと思います。

今年は、蔵書展のテーマに沿った年表や併設展示には可愛いプラネタリウムが登場するなど館員の手作りの力作が並びより蔵書展を楽しんでいただけたと思います。毎年進化する蔵書展、来年はなにを見せてくれるのでしょうか。楽しみです。

3年、編集委員として館報「香散見草」を編集してまいりましたが編集委員の交代の時期がきました。私の無理な原稿依頼に数多くの方が答えていただきました。感謝しております。これからも多くの方々にお世話になると思いますが、今後とも館報「香散見草」をよろしく願います。

(E. N)



【カット】 理工学部教授 楠田 一夫先生作

近畿大学中央図書館報 香散見草 40号

2009年12月発行

編集・発行 近畿大学中央図書館

〒577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号

TEL(06)6721-2332